



広報



市の鳥・シジュウカラ



FUSSA

ホームページ <http://www.city.fussa.tokyo.jp/>

平成20年(2008年)

2月1日 No. 752

発行/福生市 編集/企画財政部秘書広報課
〒197-8501 福生市本町5
☎042-551-1511 (市役所代表)
毎月1日・15日発行

今号の主な記事

2面 交通災害共済に加入しましょう、2月の納税 3面 平成18年度バランスシート、嘱託職員・パートタイマー募集
4面 3月の女性悩みごと相談 5面 生涯学習ガイド 6面 景観フォーラムの開催について、安全安心まちづくり

郷土資料室 企画展示

「多摩川の自然と生き物たち」

日程2月9日(土)～4月13日(日)

休館日毎週月曜日

(祝日の場合は翌火曜日)

問合せ郷土資料室 ☎530・1120



福生市は多摩川の中流域に位置しています。市内で見られるハケと呼ばれる崖線や河原に残る豊かな自然環境は、多摩川によってもたらされたものです。

今回の企画展示では多摩川の自然に注目し、観察される動物・鳥たちの剥製・写真資料、河原で採取された植物や岩石の標本資料などを展示し、多摩川のさまざまな現況に生育する動植物や自然環境を紹介します。

多摩川と平井川の合流付近です。福生市の地層は、これまでに多摩川が運んできた礫からなる段丘礫と、その下に約170万年前河川によってつくられた加住礫層と呼ばれるやわらかい地層から形成されています。この付近ではこの加住礫層が確認できます。



オギの群落

多摩川の河原にはオギやススキ、ツルヨシなどの植物がみられます。これらの植物の種は、軽くて風に乗りやすいように綿毛や羽根がついているのが特徴です。秋になると遠くに種を運んでいきます。



カワセミ

多摩川には豊かな自然が残り、カワセミやキセキレイなどさまざまな野鳥が観察できます。

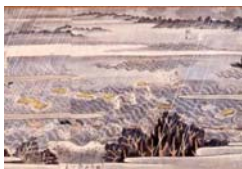
ハケに残る雑木林などではコゲラなども見られます。

水辺や草むらなどではどんな鳥が見られるでしょうか。

河原には礫岩・砂岩・チャートなどのさまざまな石があります。今から約4,000年ほど前の福生に住んだ縄文時代の人びとは、これら多摩川の石材を加工し生活の道具となる石器を作りました。



多摩河原の石



牛浜出水図

先人たちは、時には自然災害もありましたが、川魚を食料として多摩川の恵みとともに暮らしてきました。

安政六年(1859年)に牛浜地区を襲った大雨による洪水の様子を描いた絵巻です。この中には多摩川が増水した様子も描かれています。増水した多摩川の中にはたんすや長持が流されています。

福生市登録文化財の

登録のお知らせ

市では文化財登録制度を導入して、より積極的な文化財保護を推進しています。

この制度は、指定文化財制度が市の文化財全体のうち、特に貴重なものを重点的に保護しているのに対し、保護の対象となる文化財の枠を広げ、浅く広い文化財の保護を行なうものです。

現在までに60件の文化財が登録されていますが、12月19日付けで、新たに「桶樽等製作用具」の文化財登録(登録第61号登録有形民俗文化財)を行ないました。この「桶樽等製作用具」は明治時代から昭和にかけて、市内で桶屋を営んでいた笹本家から、市に寄贈されたもので、桶や樽の製作に必要な道具類363点です。

これらの道具類は、かつて福生の市民生活に必要な桶や樽の製作を支えてきた貴重な文化財で、未来に伝えるべき郷土の大切な文化遺産です。

問合せ郷土資料室 ☎530・1120

広報ふっさ紙面にSPコードを掲載しています

視覚障害者の情報ツールとして開発された二次元シンボル「SPコード」(下図参照)を広報ふっさの紙面に試行的に導入しています。SPコードは縦横18mmの大きさに、日本語で約800文字の文字データを納めることができ、専用読取装置を使うことで、コードに記録されている文字情報を音声で聞くことができます。

毎月1日号に連載している野澤市長の随想「きんもくせい」をSPコード化しています。

問合せ秘書広報課広報広聴係

きんもくせい

追込み



出初式にて

2月を迎え、受験や決算に追われている人も多いと思います。2月にどれだけ進められるかによって、結果が変わってきます。頑張ってください。

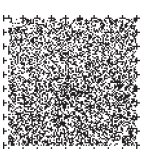
自分なりに限界まで頑張ったという経験は、何をやるにせよその後の人生で大きな意味を持っているのではないのでしょうか。

あの時ここまでやれたのだから、これくらい何でもないと思えば、たいがいのことは成り得るでしょう。

自然、社会等の環境は、さまざまに変化しています。地球温暖化はどんどん進んでいます。国際競争社会では、今まで以上に競争が激化しています。

そういった環境の中で、生物としての人間が、心豊かに生きていくためには、自分をどれだけ鍛えてあるかが問われるということでしょうか。このような耐性(耐える力、我慢する力)は、今後環境が厳しくなるほどに要求されます。

私たちは、環境を良くしていくとともに、自分の耐性を高めていく訓練も、ますます必要になるでしょう。自分や自分たちで乗り切るしかありませんから。



携帯電話で市政情報を提供 サービスメニュー→行政→「テレモ自治体情報・マイタウン福生市」